

いよいよ夏休み、子どもたちの元気な声が聞こえてくるのは嬉しいですね。被災した子どもたちに本を贈る—その第1弾をまもなく希望される施設にお届けします。募金をいただきました多くの皆様、ありがとうございます。現在会員登録数 564 人さま。次号は 8 月 20 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 10

《3》 サイト紹介 —子どもの本をリサーチする—

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

● むかしのかみしばい 子どもの本を たいけんしよう!

1. 日 時：平成23年8月6日（土） 午後1時30分～4時

第1部 1時30分～2時10分 街頭紙芝居の実演、昔の絵本のおはなし会

第2部 2時20分～4時 ワークショップ 昔の絵本の復刻版や街頭紙芝居の複製版を使って声を出して読んでみましょう。

2. 場 所：大阪府立中央図書館 大会議室

3. 対 象：第1部：子どもと大人

第2部：小学生

4. 定 員：第1部・2部：30名（小学生、事前申込、先着順）

第1部のみ：70名（子どもと大人、当日自由参加）

5. 参加費：無 料

6. 主 催：財団法人 大阪国際児童文学館

後 援：大阪府立中央図書館／三邑会

7. 申込方法：当財団ホームページ、電話、ファックス

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る— その1

『いっしょだよ』募金のお願い!

子どもたちに本を!被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

◎ 募金は最寄りの郵便局から郵便振替による送金をお願いします。

口座番号：00970-9-12891 加入者名：毎日新聞大阪社会事業団

・通信欄に「子どもの本」と明記ください。

・お名前を毎日新聞に掲載させていただきます（匿名にもできます）

・税制上の優遇措置が受けられます。

* 本そのものの寄付は、受け付けておりません。ご了解ください。

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る— その2

「本の寄贈を希望される施設」の募集！

- ・ 対象：学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など
- ・ 寄贈先予定数：200カ所（予定）
- ・ 図書の内容：施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入し保護カバーをつけて送付します。
- ・ 受付期間：平成23年11月末日まで（予定）
- ・ 応募：当財団ホームページから申込みできます。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

お申込み／お問合せ：当財団『いっしょだよ』キャンペーン事務局

主催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合
毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『闇のダイヤモンド』 キャロライン・B・クーニー/作 武富博子/訳

評論社 2011年4月

あらすじ:16歳のジャレッドの家族は、ナイジェリアからの難民の4人家族を受け入れることになった。4人家族のうち、娘のアレイクは内戦のショックで口がきけない。ジャレッドは、信心深い両親と優等生的な11歳の妹に距離を置いており、最初は4人の受入れを拒否していたが、少しずつ彼らに理解を示していく。そして、4人が本当の家族ではないこと、同室で暮らすことになった少年マトゥがダイヤモンドを隠し持っていることを知る。一方、一人の男が4人を探していた。

Y：1983年～90年に評論社から出版された「児童図書館SOSシリーズ」が「海外ミステリーBOX」として一部復刊されています。

O：第1巻のニーナ・ボーデン作『砦の町の秘密の反乱』は、12歳の少女が架空の国の革命に巻き込まれるという作品で、いまでも印象に残っています。ミステリーファンも楽しめるシリーズでしたから、そのうちのいくつかが、新たな装丁で読めるのは歓迎ですね。

Y：「ミステリーBOX」として8冊が刊行されており、4冊が「SOSシ

リーズ」からです。今回のシリーズは全てアメリカのミステリー作品に対して贈られるエドガー・アラン・ポー賞のジュニア部門・YA部門の受賞作とノミネート作です。

O：『闇のダイヤモンド』は、今回新たに翻訳された作品で、最初から事件の真相はわかっているので、謎解きのおもしろさがないのは残念ですが、でも、アメリカの本当の家族とナイジェリアから来た擬似家族の二つの「家族」が出会い、変化していく物語としてよかったです。

Y：ナイジェリアから来た家族が攻撃されないかとおびえたり、マトウが体育のサッカーの試合で殺しあうような戦いぶりを見せたりするところにリアリティを感じました。また、アレイクが犬によって心を少しずつ開放していく点も納得しながら読みました。

O：多くの登場人物がいますが、一人一人の描写が丁寧で目に見えてきました。ジャレッドの母親カーラの何にでも頭を突っ込んできて、面倒見のいい様子に「ああ、いるいるこんなおばさん、アメリカにも日本にも」なんて。

Y：ジャレッドはこの事件を通してもちろん成長しますが、妹のモプシーも少し大人になります。

O：アレイクを見捨てずに一生懸命話しかけ続けるモプシーはいい味を出していましたね。この作品のように、ミステリーと銘打たれていても、事件だけでなく、人間関係や社会問題をきちんと描いているのが、「シリーズとしておすすめ」のポイントかな。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 11

「その5 絵本の選び方(7) 絵本を評価する：絵1」

絵本は「絵とことば」でできているため、絵もことばも同じくらい大切で、いずれもその芸術性に確信が持てる作品でなければ、子どもの前で読む作品とは言えません。加えて、絵本の絵には独自の評価基準があります。

それは、ページをめくるといふ絵本の特性を考えた絵になっているかということです。横書きなら左から右へ、縦書きなら右から左へページはめくられていき、視線も自然にその方向に移動します。読者を自然に次のページに誘いたいときには、登場人物や背景がページをめくる方向に向かっていきますし、反対に、作者がここで読者の視線を留めたい、または登場人物が空想の世界に入ることを知らせたいと思う場合にはあえて、逆方向に向かわせるなどの仕掛けがなされています。

同時に、絵から物語の構成が読み取れることが必要です。一つの物語を限られたページ数で表現するため、どの場面をどのように描くかが計算されているはずで、例えば、強調したい場面は見開きで一つの場面が描かれ、そうでないときはページごとに異なる場面が描かれていることがあります。また、数分間のできごとを3ページにわたって描くこともありますし、ページをめくると3年後になっていることもあります。

同じように、ページをめくっても同じ空間に登場人物がいる場合は、その場面が物語にとって大切な場面であることがわかりますし、空間が移動していれば物語が展開していることがわかります。絵の変化とことばによって、ページをめくるリズムが作りだされているのです。

さらに、絵本には絵の中の仕掛けを読み取る楽しさもあります。同じ空間を描いていてもページによって変化があれば、それを見つける楽しさです。例えば、前ページでは背景にちょうちんが飛んでいたが、次ページでは花にとまっていたなどの変化です。一見、物語に関係ないようでも登場人物の心の落ち着きを象徴的に表わしているというように、優れた絵本では必ず意味があり、これらを読みとけば読み解くほど、絵本の深さを楽しむことができます。

*次号では「その5 絵本の選び方(8) 絵本を評価する：絵2」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 11 回目。今回ご紹介するのは、次のサイトです。

占領期新聞・雑誌情報データベース (20 世紀メディア研究所 占領期メディアデータベース化プロジェクト委員会) <http://m20thdb.jp/login>

メリーランド大学(米国)には、占領期の日本でGHQにより検閲された図書や雑誌、新聞などが多数保存されています。これは、当時検閲の任にあったゴードン・ウィリアム・プランゲ博士が、検閲済みの資料を持ち帰ったもので、その数は、雑誌約 13,800 タイトル、新聞・通信約 18,000 タイトル、図書約 73,000 冊にもおよび、約 60 万ページもの検閲文書を含んでいるそうです。占領期の資料として極めて貴重なコレクションです。

同大学と日本の国立国会図書館が 1991 年から目録作業を開始し、マイクロフィルム化。これらは国会図書館で検索することができます。

<http://opac.ndl.go.jp/index.html> →「プランゲ文庫検索」

この膨大なコレクションのうち、雑誌記事を検索できるのが今回のサイトです。登録すれば、記事タイトル(雑誌名も)や執筆者、雑誌ジャンル、発行年月等から検索ができます。また、検閲の書き込みに関する情報もデータベース化され、記事に対してどのような検閲が行われたのか、その書き込み内容を確認することができます。

日本では見られない資料も多く、検閲の実態に加え、この期の出版状況を知るうえで大変重要といえます。(J)

※次号は、資料所在データベース篇〈その 12〉の予定です。

《4》 行って来ました！

滋賀県立近代美術館で開催されている、五味太郎作品展 [絵本の時間] に

行ってきました。絵本の原画は壁面の低めの位置に貼りめぐらされ、対応する文章のパネルがつけられています。幼い子どもさんがたどたどしく声を出して読んでいたりして、ほほえましい雰囲気です。パネルをたどっていくと、『みんなうち』や『ぼぼぼぼ』など代表作10作品くらいがまるまる楽しめます。

少し暗い発色のインクのにじみや濃淡が、絵本よりもはっきりと感じられ、迫力があります。『がいこつさん』の骸骨のからだは白抜きで描かれていたり、しかけ絵本の『まどからおくりもの』の原画には窓の形に空いた穴はなく、窓の位置を考えて前後のページが描かれているなど、楽しい発見もありました。

ビデオでは仕事場の風景が紹介され、スマートでインテリジェンスなイメージの五味さんの制作へのこだわりがうかがえます。展示作品をアニメーション化した映像は、ナレーションが効いていて、原画や絵本を見るのとはまた違う感覚を味わえます。五味太郎さんの絵本の世界を満喫できる展覧会でした。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「輝く街頭紙芝居ー街角のドラマー」

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

期 間：開催中～10月2日（日）

内 容：同館所蔵の街頭紙芝居 約50点

解 説：昭和20年代、子どもたちが熱狂した紙芝居。街角で演じられていた街頭紙芝居の数々を、紙芝居とも関連が深いマンガ資料とともに紹介。

イベント：8月6日（土）

午後2時30分～3時 ギャラリートーク（職員による展示資料の解説）

午後1時30分～4時 街頭紙芝居の実演とワークショップ（当財団主催）

詳細は【1】お知らせ欄をご覧ください。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『闇のダイヤモンド』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.11プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |



夏休みといっても読書はせず、宿題の読書感想文は大嫌いだった。セミを追いかけて口を開き（上を向いているから）、「宿題さえなければ天国」と遊びまわっていた子どもの頃。

大人になって、宿題もない代わりに夏休みもなくなった。いや、もうすぐ毎日が、夏休み、秋休み、冬休み、春休みになる…。（A）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
